

●底質

底質については、海上保安庁水路部の海底地形地質調査報告書²⁾によれば(図-2)、島周辺のサンゴ礁域、点在する曾根域を除けば、おおむね砂礫底域となっている。

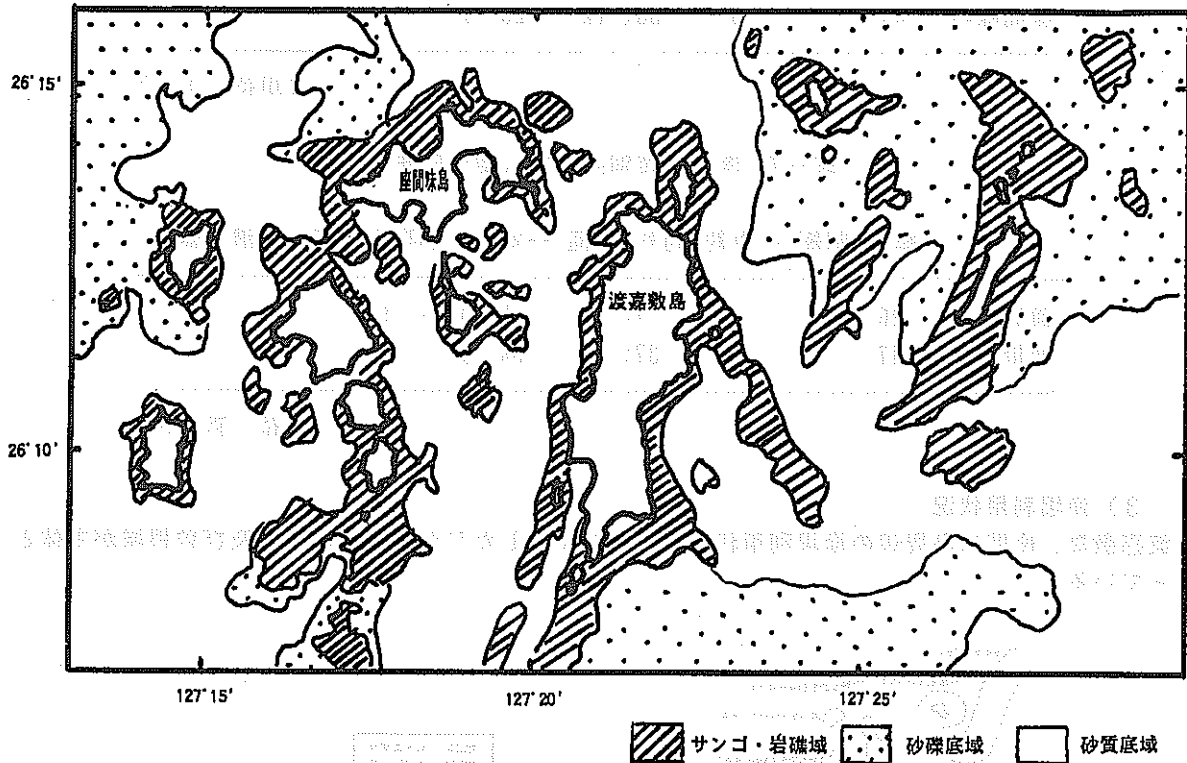


図-2 慶良間列島周辺の底質

3. 漁業経営・生産状況

1) 漁業経営体数

昭和62年でみると(表-4)³⁾、漁業経営体数は渡嘉敷村で35、座間味村で65である。昭和58年の漁業センサスでは渡嘉敷村の漁業経営体数は19、座間味村では36であり、経営体自体は増加しているが、両村では遊魚、ダイビング案内兼業が多く、漁業が主となる経営体は少ないものと考えられる。

表-4 漁業種類別経営体数(昭和62年)

	総数	刺網	イカ釣り	釣り(曳縄 一本釣り)	小型定置	その他(潜水器 追込網 其他)
渡嘉敷村	33	4	7	13 (7 6)	-	9 (7 1 1)
座間味村	65	-	-	64 (8 56)	1	- (- - -)

2) 漁業生産

昭和62年でみると、渡嘉敷村の漁業生産量は31トン、座間味村では44トンとなっている、これを漁業種類別にみると、生産量が最も多いのは釣り漁業で、イカ釣りをあわせると、両村の漁業生産量のうち7割弱が釣り漁業による生産となっている(表-5)。また、漁業生産額は、渡嘉敷村で2,600万円、座間味村では4,700万円である(表-6)³⁾。

表-5 漁業種類別生産量(昭和62年)

	総計	刺網	イカ釣	釣り(曳縄 一本釣)	小型定置	延縄	潜水器
渡嘉敷村	31	5	7	12(9 3)	-	2	5
座間味村	44	-	6	38(12 26)	0	-	-

(単位:トン)

表-6 漁業種類別生産額(昭和62年)

	総計	刺網	イカ釣	釣り(曳縄 一本釣)	小型定置	延縄	潜水器
渡嘉敷村	26	3	11	7(4 3)	0	3	4
座間味村	47	-	9	37(3 34)	-	-	-

(単位:百万円)

3) 漁場利用状況

渡嘉敷島、座間味島周辺の漁場利用状況は図-3に示した⁴⁾が漁場は島周辺及び曾根域が主体となっている。

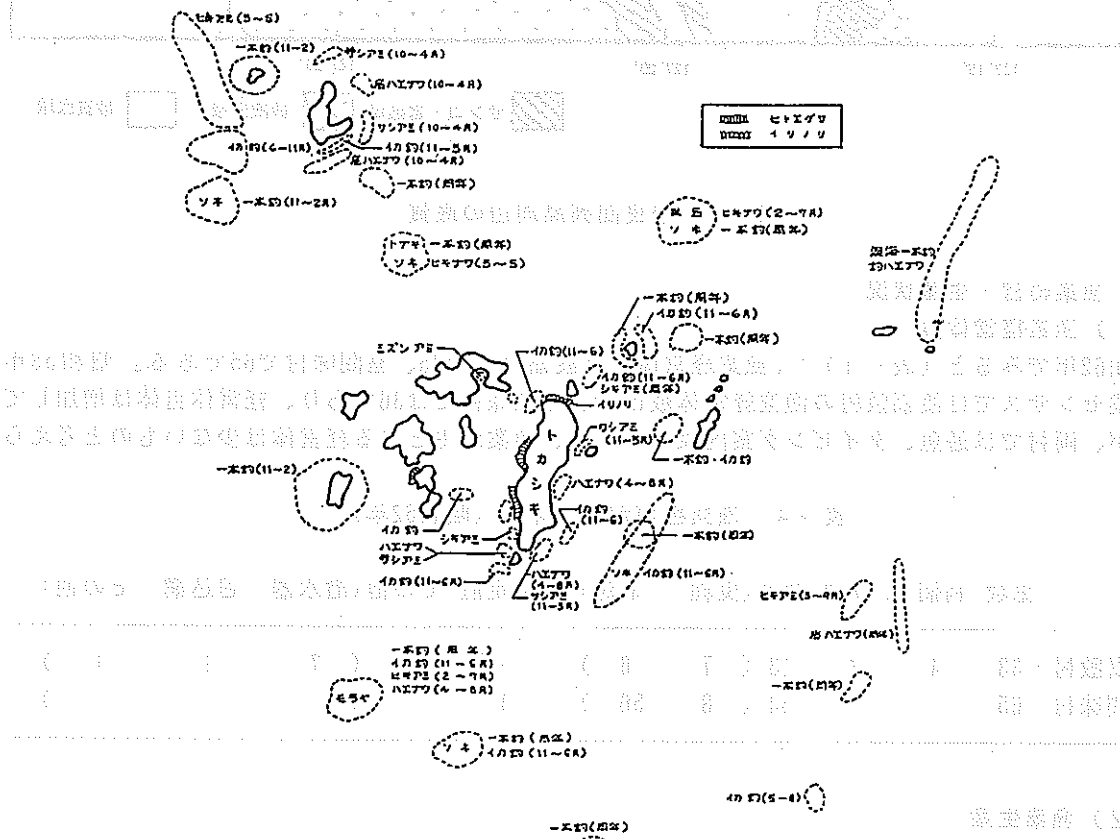


図-3 慶良間列島漁場利用図